

ゆめくる・かほく

【中学校版】

2021年(令和3年)
12月号 No.1
山鹿市教育委員会
教育総務課
山鹿市立鹿北中学校

▽四月からを振り返って△

小規模特認校

今年四月より、鹿北小中学校は小規模特認校となり、山鹿市内在住の児童生徒であれば、誰でも通える学校となりました。

現在この制度を活用して七名の生徒が鹿北中に通ってきています。

様々な悩みを抱えていた生徒もいましたが、鹿北の子どもたちとの交流を通して元気を取り戻すことができた生徒もいます。

また、小学校の時からクラス替えがなくメンバーが変わらないままのクラスに、新しいなかまが増えたことで、鹿北の子どもたちにとっても、いい刺激となっています。



総務委員会+班長会

学級総務委員と各学年班長との合同会議は、今年から始まった特色ある取組の一つです。

自分たちの課題を自分たちで見つけ、解決するための方法を話し合っ
て考え、みんなで行動化していく。

そんな自治的な力をつけることを目的としています。

総務委員長を中心に、毎月話し合いを重ね、その都度、行動化、実践化していきました。

授業でも同じですが、今年の鹿北中は様々な場面で、「教える」から「学ぶ」へと転換を図っています。

自分たちが動くことで、より多くの学びを経験し、その経験を生かして、スキルアップにつなげています。

GIGAスクール

一人一台のタブレットを持ち、ネットワーク環境を整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、個別最適な学びを行うことで、生徒の力を最大限に引き出すのが、GIGAスクール構想です。

鹿北小・中学校は、その拠点校として実践を積み重ねてきました。

十二月には、公開授業を行い、多数の皆さまにご参観していただきました。

鹿北中の授業は、現在、大きく変わろうとしています。そのポイントは、①個別支援

の充実、②タブレットの活用、③教室内習熟度別学習の三点です。今後も、個別最適な学びの実現に向け精進していきます。

学校情報化優良校

十二月十五日、鹿北中は、日本教育工学協会より、教育情報化優良校に認定されました。山鹿市の小中学校では初めてのことです。現在、様々な場面での

タブレット活用が当たり前になってきています。



タブレットの活用及び教室内習熟度別学習のようす



ゆめくる・かほく

【中学校版】

2021年(令和3年)
12月号 No.2
山鹿市教育委員会
教育総務課
山鹿市立鹿北中学校

☆「自分たちから」を学校文化に! ☆

十一月六日(土)、「あつまれ芸術の森in鹿北」を開催しました。

この企画は中学生が考え、計画や準備、他団体との交渉なども自分たちで行いました。

職員会議にも中学生が出席して企画について説明しました。

中学生が職員会議に出席することは、今まで一度もありませんでした。

自分たちで「ゼロ」から「一」を生み出し、道がないところに自分たちで道を創る。

そんな挑戦を試行錯誤しながらも、中学生自らがやり遂げました。

この取組を支えたのが「自分たちから」です。



鹿北未来会議で、地域の方々へ取組の説明を行う鹿北中生

先生方から言われる前に、考える、話し合う、動く。こんな文化が今、鹿北中に確立され始めています。

栄光を讃えて

☆女子ハンドボール部躍進
県中学生選手権 ベスト4
県中体連大会 3位
JOCジュニアオリンピック
全国大会出場
(本校からも選抜チームに2名選出)

☆山鹿市英語暗唱大会
金賞 鹿北中2年の部
3年の部

☆熊本県人権作文コンテスト
奨励賞
2年 永田 爽明 君

☆熊本県科学展
県知事賞
2年 中島 とあ さん

☆熊本県善行児童生徒
A表彰 鹿北中生徒会
(県内で1個人、1団体のみA表彰)

この他にも、市読書感想文コンクール、市読書感想画コンクール、市美術展、税の作文コンクールなどで多数入賞・入選。

間違ってもいい学校、失敗してもいい学校へ

鹿北中生徒会では、今年度、「間違ってもいい、失敗してもいいから、チャレンジし続ける鹿北中生」という目標をかかげ、挑戦を繰り返してきました。

学校は、正しいことが求められることが多いところですが、

しかし、あえて、「間違ってもいい、失敗してもいい学校」を目指したところに強い思いが感じられます。

「間違えたらどうしよう。失敗したらどうしよう。」などと考えていたら、挑戦なんてできない。

だから、間違えることが当たり前前なんだという学校文化を創ろうと考えた生徒会。とてもすごいです。



何度も何度も思いを伝え合う鹿北中生

Try & Error ~挑戦とステキな失敗~

十二月二十一日、生徒会活動総括会を行いました。一人ひとりが、自分のTry&Errorを振り返り、成長した点などを確認し合いました。

鹿北中は、「失敗を恐れず挑戦する」。そんな空気でいっぱいです。

